

大鹿村中央構造線博物館たより 164号



今年も
ヨロシク！

2023年1月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

南アルプスジオパーク再認定されました！

先月の博物館たよりで、南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークの再認定審査の様子をお伝えしましたが、昨年12月16日に審査結果が出て、「再認定」となりました。引き続きジオパークの活動も継続することとなりましたので、よろしくお願いたします。(宮崎)

ジオパークの全国研修会に参加しました！

11月下旬に、宮城県北部の栗駒山麓ジオパークで開催された日本ジオパークネットワーク全国研修会に参加してきました。研修会のテーマは「“守る”ことで地域を発展させる ジオパークにおける地質遺産の保全と活用を考える」ということで、丸3日間、現地見学やグループディスカッションを行いました。



写真1 荒砥沢地すべり鳥瞰写真

林野庁 東北森林管理局ホームページ内、「岩手・宮城内陸地震に係る荒砥沢地すべり対策と大規模地すべりにより出現した地形・景観の活用に関する検討会 報告書」より抜粋
https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/apply/publicsale/koukoku_kyoku/pdf/3p1_19-40.pdf



写真2

荒砥沢地すべりの滑落崖
(東側)

黒矢印は、かつて道があった場所から落ちてしまった白いガードレール



写真3

荒砥沢地すべりの滑落崖
(西側)

人のいる後ろの草が伸びてくると滑落崖が見えなくなるので、時々草刈りを実施しているとのこと。

現地見学では、平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震をきっかけに起きた日本最大級の地すべり・荒砥沢地すべり(写真1)を見学しました。写真2は、地すべりの滑落崖の一部です。もともとここには奥から手前に向かって道路があったのですが、写真手前側の地面が動いたために高さ150mの崖ができ、道が分断され、白いガードレールが落ちてしまったそうです。通常、地すべりが起きると、その後には大がかりな対策工事が入るそうなのですが、荒砥沢地すべりでは、地元の研究者の提案があり、最低限の安全性確保のための工事以外は行わず、できるだけそのままの状態に残し、震災の経験と教訓を後世に伝えるために活用していくことになったそうです。ただし、そのままにするとといっても、時間の経過とともに、少しずつ崖の崩落は進み、草が茂って崖も見えなくなってくるため(写真3)、地表面の変化を24時間自動監視したり、草刈りを実施したりといった保全活動を行っているそうです。

大鹿村の北川露頭、安康露頭も、2013年に国の天然記念物に指定されたこともあり、できるだけ手を入れず、保全していく方法をとっていますが、自然は変化していくことから、まったく何もしないというわけにもいきません。安康露頭は2年前の豪雨で歩道や解説板が流されてしまいました。今年度は、応急処置をして見学可能な状態にしましたが、今後、どのように保全と活用をしていったらよいか、検討しているところです。今回の研修で学んだことを、生かしていけたらと思います。(宮崎)